

3 10:40~11:30

教育講演

精神障害者の就労支援 —精神障害者の雇用義務化や合理的配慮の提供義務を踏まえて—

講師 ● 相澤 欽一：仙台市障害者就労支援センター

ハローワークにおける精神障害者の就職件数は近年急増しています。その背景には、精神障害者の雇用義務化など制度面の追い風があります。また、障害者雇用促進法に事業主の障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供義務が規定され、雇用の質の向上も期待されます。就労支援は企業の従業員に対する雇用管理と無関係に行うことはできません。本講演では、障害者雇用の現状を説明した上で、企業に求められる雇用管理と連動した就労支援の基本的な視点やコツについて述べ、最後に就労支援におけるSSTの可能性について触れたいと思います。

4 11:30~12:20

講演

刑務所でのSST

講師 ● 前田 ケイ：一般社団法人SST普及協会顧問
柿崎 真澄、SST認定講師 他有志関係機関及び団体職員

刑務所でのSSTは2006年（平成18年）に就労支援の方法として導入されました。現在は刑務所のいろいろな教育場面でSSTが広く取り入れられ発展を見えています。その概要について、まず、前田ケイと柿崎真澄の対話方式で「刑務所におけるSSTの始まりと発展」を紹介します。続いて実際に宮城刑務所で行われた「怒りのコントロール学習」のセッションを有志の関係職員によるシミュレーションで見いただきます。50分ですが、お楽しみ下さい。

5 12:25~13:25

企業セミナー

心理社会的療法と薬物療法について

座長 ● 富田博秋：東北大学
講師 ● 加瀬昭彦：一般社団法人SST普及協会理事／横浜舞岡病院
協賛 ● 大塚製薬

※本視聴は、一般の方に対する情報提供を目的としたものではありませんので、『医療関係者のみ』とさせていただきます。

「薬物療法と心理社会的療法～民間精神科単科病院での工夫」

演者が民間精神科単科病院に着任して約20年がたつが、その頃は第2世代と呼ばれた抗精神病薬が上梓され、それまでの統合失調症の薬物療法が大きく変動した時代でもあった。同時に心理社会的治療も発展・普及していき、SST普及協会も2025年には協会発足30年、法人化10年を迎えることになる。しかし、日本の精神科医療の現場の多くを占める、民間の精神科単科病院は実際にはどのように変化したのか。演者には日本全体の現状を俯瞰することはできないが、当日は現場の肌感覚で自分の体験してきたことを紹介したい。それらを踏まえ、私たち、統合失調症の治療に関わる支援者は何を指すべきなのかということを考えてい。

6 13:25~13:55

特別セミナー

服薬アドヒアランス向上のための訪問服薬・心理教室プログラムHOPEを使ってみませんか

講師 ● 齋藤 百枝美：東京薬科大学
高木 友徳：一般社団法人SST普及協会理事／ともこころのクリニック
中島 太一：中島映像出版
協賛 ● 中島映像出版

在宅訪問サービス用の訪問服薬・心理教育プログラム（Houmon Psycho-Education on Medication Program：HOPE）は、SST普及協会 Mobile Medication Management Program Task Force（SST-MMT）により開発されました。HOPEは1回約15分、8回で構成されたiPadやPCを用いて個別に実施するインターネットを活用した新しい服薬自己管理サポートシステムです。毎回の訪問で、宿題の確認、前回の復習、テーマの紹介と動機付け、ビデオ視聴、質疑応答、ロールプレイの6つの過程を経て学習することで、利用者の服薬自己管理に関する知識の理解と定着が図られます。訪問スタッフは「指導者用マニュアル」に従って学習を進めるため、訪問スタッフが代わっても同質の指導が可能であるため、様々な職種の訪問スタッフが実施できる簡便なプログラムであり、在宅訪問サービス用のHOPEは大変有用と考えています。

（注）SST普及協会 Mobile Medication Management Program Task Force（SST-MMT）には次のメンバーが参加しています。

齋藤 百枝美、伊神 敬人、小中原 隆史、小松 洋平、高木 友徳、永井 典子、橋本 俊英、中島 太一、丹羽 真一、野口 卓也

7 14:00~15:30

シンポジウム

e-SSTをつくる私の経験

座長 ● 吉田みゆぎ：一般社団法人SST普及協会理事／同朋大学社会福祉学部

シンポジスト1

医療法人社団楽優会 札幌なかまの杜クリニックでの就労支援・地域定着支援での工夫

講師 ● 村本 好孝：一般社団法人SST普及協会理事／札幌なかまの杜クリニック統括 看護師

札幌なかまの杜クリニックは、精神障害をもった当事者たちが「自分たちに必要な医療を自分たちで創らないと…」という声から始まりました。6割のスタッフが当事者としての経験を持っているのも特徴で、当事者と協働することの工夫や苦労を色々してきました。今回、クリニックでの活動や学びを整理して皆さんに発表する機会をいただきましたので、日々の実践内容や日々考えていること、もちろん失敗や苦労話も発表させていただきたいと考えています。そして、皆さんの意見を聞かせてもらい、今後の支援に活かしていきたいと考えています。